

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 161 号 2011. 9. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

ウイルス性の腸炎が回復

木更津市 小鷹由紀子



今年の4月下旬、3歳の息子がウイルス性の腸炎にかかり、2日間下痢とおう吐の繰り返しで、かわいそうなくらいぐったりしていました。当然、何も食べることができず、水さえ満足に飲めない状態でした。

そんなとき、いつもお世話になっている松吉さん、朝倉さん、藤井さんたちが心配してくださり、自然農法の食物だったら食べられるかもしれないということで、山本さんの自然卵と、無施肥無農薬の野菜を持ってきてくださいました。

息子はもともと卵があまり好きではないので、最初は無理だろうと思いましたが、ゆで卵にして与えてみると、不思議なことにペロッと食べてしまい、正直驚きました。野菜もふつうのものとは違って、とても甘くおいしかったです。そのおかげで、一週間、下痢とおう吐は続いていたものの、信じられないくらい元気でしたので、とても助かりました。皆さんの心に感謝の気持ちでいっぱいです。

北海道タマネギ、カボチャ便利

名寄市 尾針真智子



北海道の尾針農園です！ タマネギとカボチャを無施肥無農薬で栽培しています。

今年は北海道も例年とは違う気候で、無事に作物を収穫できるか不安でした。春の長雨で作付けが遅れたうえに、7月から8月半ばまで日照りで、タマネギの葉が枯れてきて、その後に雨が降っても、早生の玉ねぎは大きくなれませんでした。幸いにも、自然農法普及員の指導で、中手のタマネギも少し作付けをしていましたので、そちらは日照りの被害が少なく、普通に育ってくれました。とても感謝しました。



一方カボチャは、日照りにも枯れずに持ちこたえて、雨が降ったとたんにもメキメキと玉が大きくなり、毎日驚きながら見守っていました。今年は教えてくださった方がいて、かぼちゃが日焼けして腐ってしまわないように、玉がある程度の大きさになったら、新聞紙にくるんでみました。すると効果があって、腐るロスが少なく、きれいなカボチャが収穫できました。

天候が厳しい状況で、タマネギもカボチャも例年より量が少なくなりましたが、今年も皆様にお届けできるようになり、感謝で一杯です。

今年はカボチャの当たり年で、とても美味しいと言われています。ぜひ自然の恵みを味わっていただけたらと思います。

GM トウモロコシに害虫被害？

先日(9月9日)、「米農業・バイオ大手モンサントの害虫駆除効果のある遺伝子組み換え(GM)トウモロコシの一種に対して、耐性を持つ害虫が確認された」という記事を目にしました。せっかく人為的に遺伝子を操作してまで、害虫に強い作物を作ったにもかかわらず、それに打ち勝つ害虫が発生し、トウモロコシの根を食い荒らしてしまったというのです。

一方、先月ホットニュースでもご紹介しました、熊本の渡辺さんの自然農法田は、米とトウモロコシと作物は違いますが、あぜをはさんだ隣の田んぼにまでおよんだウンカの被害が、手前一行目の稲を若干枯らしたくらいで済んでしまったという衝撃的事実を学びました。

世界中に遺伝子組み換え作物は氾濫し、商業的にもまったく太刀打ちできませんし、このトウモロコシの件では、再び遺伝子操作を行い、いちごごつ的に新たな作物を開発するのかもしれませんが、自然に目を向けてみることも大切で、そこにも答えがあるのではないかと感じました。

圃場見学会

9月19日、長野県木島平の堀農園の圃場見学会へ行ってきました。前日はかなり暑かったそうですが、この日はとても涼しくて、見学中は雨にもふられず、快適でした。

堀さんは今年から5年かけて、耕起方法、代かき、育苗、除草体系、自然農法稲作適正品種の5つの試験・試作をされるとのことです。自然農法で生活していけることを証明する、基本の指標を作ることを目標とした取り組みです。その1年目を見せていただきました。



田んぼは何枚にも分かれていて、草もなくみごとに実っているところ、草取りが追いつかなかったところ、新しい品種を植えたところなどいろいろ見てまわりました。「稲の株のひとつひとつに力強さを感じる」「ワラがつややかになった」「去年より粒がふっくらと丸い」「慣行農法の葉はギザギザで痛い自然の葉はさわられる」などの感想が聞こえました。



稲の穂に「雌穂(めほ)」というのがある、と教えていただき、みんなで探しました。普通は茎から互い違いに枝がでていますが、同じところから枝が二股に出ている穂を雌穂といい、良いという説があるそうです。でもなぜそれが良いのかは不明ということで、インターネットで調べたところ、江戸時代の農業に関する書物に、種物を雌雄に区別し、雌穂を種にすることを勧める記述があるようでした。堀さんの田んぼではたくさん見つかりました。

また「自然農法に向く品種がある」と聞いて探していたところ、自然栽培を長年続けた人から60gの種籾を譲ってもらうことができ、今年自然9年目の圃場に植えたそうです。そして「青い草が天に向かって伸びる様子に龍をイメージした」とのこと、蒼龍(そうりゅう)と命名。モチ米やコシヒカリにくらべてまだ青かったのですが、草丈が高く、とてもしっかりとした印象でした。実るまであと3週間とのこと。6月にこの稲の田植えを手伝ったMさんは元気に育った様子を見てとても喜んでいました。はたしてその味は？みんな興味津々でした。ぜひ味わってみたいです。



見学後はペンションで自然の野菜たっぷりのバーベキューをいただき、自然農法で営農できることの重要性について話が盛り上がりしました。参加者からは「先のことまで考えて取り組んでいるのだな、と思った」「稲を見て、さわって去年との違いも感じたし、感動した」「新しいことに挑戦する姿勢が素晴らしい。稲刈りもぜひ手伝いたい」との声がありました。農村天国の実現に向けて、私たちにもなにかできることはないか、考えていきたいと思ひます。(編集部)

お知らせ

自然農法勉強会 10月26日(水) 午前の部 10:30~ 午後の部 19:00~
(別院 講堂)

自然農法頒布会 10月18日(火) 鎌ヶ谷会場 11:00~ (売り切れ次第終了)

自然農法頒布会 10月30日(日) 東中野会場 10:00~ (売り切れ次第終了)

●自然農法農産展 11月3日(祝) 展示 / 11月20日(日) 販売



無施肥無農薬栽培物の販売予定

10月3日 於: 伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- きじま平自然農産: 枝豆、野沢菜、きじま弁当
- 長柄山自然農園: 卵
- 市川生産グループ: ほうじ茶(100g 1,000円)
- 中島農園: ジャガイモ、長ネギ、ニンジン
- ジョリフィーユ: スフレタイプのチーズケーキ、シュークリーム、カスタードプリン ほか

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>